

安全データシート

ページ: 1/9

BASF 安全データシート

日付 / 改訂: 16. 08. 2021

製品: **Ultrafuse® ASA Natural**

バージョン: 1.0

(11146757/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日 16.02.2022

1. 化学品及び会社情報

Ultrafuse® ASA Natural

推奨用途: 3D印刷, 工業的用途のみに使用のこと。

供給者の会社情報、住所及び電話番号:

BASF ジャパン株式会社

東京都中央区日本橋室町3丁目4番4号

0VOL 日本橋ビル 3階

電話番号: +81-3-5290-3000

FAX番号: +81-3-5290-3333

緊急連絡先:

電話番号: 03-6634-2245

+49 180 2273-112 (International emergency number)

2. 危険有害性の要約

【化学品のGHS分類】:

本製品は、GHS分類基準に該当しない。

【GHSラベル要素】:

本製品は、GHS基準により有害性警告表示を必要としない。

GHS分類に関係しない又はGHSで扱われない他の危険有害性:

熔融状態で取り扱うと、製品が火傷の原因となる可能性がある。

3. 組成及び成分情報

化学特性

化学物質・混合物の区別: 混合物

記載の物質に基づく調剤: ポリマー, 添加剤

有害性は特になし。

4. 応急措置

[応急措置をする者の保護に必要な注意事項]:

汚れた衣服は取り替える。

[吸入した場合]:

新鮮な空気の場所に移動させ、安静にすること。症状が続くようであれば、医師の診察を受けること。

[皮膚に付着した場合]:

石鹼と水で完全に洗い流すこと。刺激が続くようであれば、医師の診察を受けること。溶融物による熱傷については、医師の診察を受けること。

[眼に入った場合]:

直ちにまぶたを開き流水で15分以上洗い流した後、眼科医の診察を受ける。刺激が続くようであれば、医師の診察を受けること。

[飲み込んだ場合]:

速やかに口を水でゆすぐ。直ちに医師の診察を受けること。

[医師に対する特別な注意事項]:

症状: (他の) 症状や影響については現時点で知られていない。

危険有害事項: 意図された用途と適切な取り扱いをすれば、危険性はないと考えられる。

処置: 症状に応じて処置(洗浄・機能回復)を講じる。特に解毒剤なし。

5. 火災時の措置

[適切な消火剤]:

噴霧水, 泡, 粉末, 二酸化炭素

[火災時の特有の危険有害性]:

炭素酸化物

火災の場合、前述の物質／物質グループが放出される可能性がある。

[消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置]:

自給式呼吸器を着用すること。

[追加情報]:

粉塵は空気と混合して爆発性混合物を形成する可能性がある。汚染された消火廃水は法令に従って適切に処分する。

6. 漏出時の措置

[人体に対する注意事項, 保護具及び緊急時措置]:

注意事項は特になし。

[環境に対する注意事項]:

環境への流出を避けること。

[封じ込め及び浄化の方法及び機材]:

少量の場合: 掃き集めるかすくい取る。

大量の場合: 掃き集めるかすくい取る。

法令に従って吸着剤を廃棄すること。粉塵を発生させないこと。

[追加情報]: 空気中に埃をまき散らすことを避ける(例: 圧縮空気です埃の面をクリーニングする)。粉塵の生成と蓄積を避けること—粉塵爆発の危険性。粉塵の濃度が十分になると、空気中に爆発性混合物が発生する可能性がある。散粉が最小限となるように取扱い、直火及び他の発火源を除くこと。

7. 取扱い及び保管上の注意

[取扱い]

粉塵/ミスト/蒸気を吸入しない。十分な換気を確保すること。乾燥工程及び加工機器の溶解物流出口周辺では適切な換気を行うこと。着火源から離して保管すること—禁煙。静電気放電に対する予防措置を講ずること。粉塵の発生および堆積を防ぐこと。

安全取扱注意事項:

本製品は燃焼拡大の原因にはならず、自己燃焼性もないし、爆発性もない。粉塵を発生させない。粉塵の濃度が十分になると、空気中に爆発性混合物が発生する可能性がある。散粉が最小限となるように取扱い、直火及び他の発火源を除くこと。

[保管]

保管条件に関する追加情報: 粉塵の堆積を防ぐこと。

保管安定性:

湿気を避ける。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

物質固有の職業曝露限界値は知られていない。

【保護具】

[呼吸用保護具]:

呼吸保護具（もしエアゾール/粉塵が発生した場合）呼吸保護具（換気の悪い場合）固体微粒子および液体微粒子に対して中程度の有効性を示す粒子フィルタ。（例：EN 143 P2型もしくはEN 149 FFP2型）。

[手の保護具]:

熱い溶融物を大量に扱う場合（繊維又は皮革など）、耐熱手袋も使用すること（EN407）。

[眼の保護具]:

サイドシールド付き安全眼鏡（フレームゴーグル）（例 EN 166）

[皮膚及び身体の保護具]:

作業および予想暴露量に基づいて、保護具を選択すること。前掛け、保護靴、耐薬品性保護衣等（飛散の場合は、EN 14605に従い、粉塵の場合は、EN ISO 13982に従う。）。

[一般的な安全及び衛生対策]:

機械処理および/又は熱溶解状態の間、接触を防止するために保護衣を着用する。作業服は、他の物と分けて保管すること。休憩前とシフトの終わりに手や顔を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|--------------|--|
| 物理状態: | 繊維状 |
| 色: | 無色から白色 |
| 臭い: | 無臭 |
| 臭いのしきい値: | 適用せず、臭気を知覚できない |
| pH: | 適用せず、物質/混合物は（水に）不溶性 |
| 融点: | > 150 ° C |
| 沸点: | 適用せず |
| 引火点: | 固体のため、未測定 |
| 蒸発率: | この製品は、不揮発性固体である。 |
| 可燃性 (固体/ガス): | UN transport regulations division 4.1及びGHS chapter 2.7に従い、可燃性固体ではない。 |

| | |
|------------------------------|---|
| 爆発下限界: | 分類と表示に関係しない固体用に関するものである。 |
| 爆発上限界: | 分類と表示に関係しない固体用に関するものである。 |
| 自然発火温度: | 適用せず |
| 熱分解: | 通常の実取扱い条件下で危険分解物なし。長時間にわたり加熱すると、分解物が発生する可能性がある。 |
| 自己発火性: | 自己発火性なし。 |
| 自己発熱性: | 自己発熱性物質ではない。 |
| 爆発危険有害事項: | 爆発性なし。 |
| 火災を引き起こす性質: | 火災伝播性はない。 |
| 蒸気圧: | 測定されていない。 |
| 密度: | 1.07 g/cm ³ (20 ° C) |
| 相対密度: | 1.07 (20 ° C) |
| 相対ガス密度 (空気): | この製品は、不揮発性固体である。 |
| 水に対する溶解性: | 不溶 |
| n - オクタノール/水分分配係数 (log Pow): | 混合物には適用されない |
| 粘度: | 固体のため、未測定 |

10. 安定性及び反応性

[避けるべき条件]:

温度: > 300 ° C

高温に長時間さらされると、密閉容器内の圧力上昇を伴う発熱分解が起こるおそれがある。あらゆる着火源 (熱、スパーク、裸火など) を近づけない。

熱分解: 通常の実取扱い条件下で危険分解物なし。長時間にわたり加熱すると、分解物が発生する可能性がある。

[混触危険物質]:

酸化剤

金属の腐食: 金属に対する腐食性なし。

[危険有害な分解生成物]:

通常の手扱い条件下で危険反応なし。

[危険分解物]:

長時間にわたり加熱すると、分解物が発生する可能性がある。、モノマー、ガス/蒸気、酸化物、炭化水素類、環状低分子量オリゴマー

11. 有害性情報

急性毒性

急性毒性の評価:

単回の経口摂取であれば、実質上毒性はなし。吸入による毒性は実質上なし。単回の皮膚付着であれば、実質上毒性はなし。溶融物に接触すると、熱傷になることがある。

実験または計算によるデータ:

(経口):適用情報なし

(吸入による):粉塵の吸入は、深刻な危険性の可能性がある。

(経皮):適用情報なし

刺激性

刺激性作用の評価:

眼及び皮膚に対して刺激性なし。機械的刺激を引き起こす可能性がある。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

感作性評価:

入手可能なデータに基づくと、分類基準に該当しない。

生殖細胞変異原性

変異原性評価:

入手可能なデータに基づくと、分類基準に該当しない。

発がん性

発がん性評価:

入手可能なデータに基づくと、分類基準に該当しない。

生殖毒性

生殖毒性の評価:
入手可能なデータに基づくと、分類基準に該当しない。

発生毒性

催奇形性の評価:
入手可能なデータに基づくと、分類基準に該当しない。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）：

単回暴露評価:
入手可能なデータに基づくと、分類基準に該当しない。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

反復投与毒性の評価:
入手可能なデータに基づくと、分類基準に該当しない。

誤えん有害性

予測される吸入危険性はない。

その他該当する毒性情報

この製品は、成分の有効なデータに基づき評価されている。それぞれの成分についてある程度のデータ格差が存在する。我々の知識と経験により、現在のラベルでカバーされないような危険性は、予想されない。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生生物に対する毒性の評価:
水生生物に対して急性の有害性はほとんどないと考えられる。長期(慢性)の毒性試験データに基づき、製品は、水生生物に対して高い確率で有害でない。

移動性

環境区分間の輸送評価:
土壌の固相に吸着すると考えられる。

残留性・分解性

生分解性及び除去率の評価（水中環境）：

生分解性および除去に関するデータなし。

生体蓄積性

生体蓄積性の可能性評価:
本品については試験していない。

[追加情報]

環境面での最終到達点及び経路に関する追加説明:
本品の安定性と水に対する不溶性のため、現在までの知見によると環境への悪影響は考えにくい。

その他の環境毒性情報:
この製品は、成分の有効なデータに基づき評価されている。それぞれの成分についてある程度のデータ格差が存在する。我々の知識と経験により、現在のラベルでカバーされないような危険性は、予想されない。

13. 廃棄上の注意

国あるいは地方の法令に従って廃棄すること。
リサイクルについて、専門の会社にコンタクトすること。

[汚染された容器]:
国あるいは地方の法令に従って廃棄すること。
使用済みの容器は出来る限り空にしてから製品と同様の方法で廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国際陸上輸送:
輸送規則では危険有害性物質に分類されていない

海上輸送
IMDG
輸送規則では危険有害性物質に分類されていない

Sea transport
IMDG
Not classified as a dangerous good under transport regulations

航空輸送
IATA/ICAO
輸送規則では危険有害性物質に分類されていない

Air transport
IATA/ICAO
Not classified as a dangerous good under transport regulations

15. 適用法令

消防法: 非危険物, 指定可燃物・合成樹脂類 (その他のもの)

その他の規則

もしも、このSDSの他の章に記載されていない法的情報がある場合には、この章に記載されます。

16. その他の情報

他の用途については、製造業者に問い合わせること。

左余白の縦線は前バージョンからの改訂部分を示す。

本安全データシートに含まれるデータは、当社の最新の知識及び経験に基づいて製品を安全性基準の観点からのみ説明するものであり、製品の特性（製品規格）を説明するものではありません。また、当該製品が特定の目的に適した性能・特性を有しているか否かを判断するためのものでもありません。本製品の使用者は自己の責任において製品に関わる特許等の所有権を尊重し現行の法律及び規則を遵守して下さい。